



松村淳/ Jun Matsumura, *JUDITH COMPLEX UNIT - 01α*, 磁土/ Porcelain, 2021  
H19 × W151 × D17 cm/ H7.4 × W59.4 × D6.6 inches

松村 淳

## METAFICTIONAL ADAPTATION CYCLE

2021年4月2日（金） - 5月1日（土）

プレス内覧会：4月1日（木）

作家在廊日：4月1日（木）、4月2日（金）

現代美術 艸居

605-0089 京都市東山区元町381-2

開廊時間：10:00AM-6:00PM 定休日：日・月



## プレスリリース

この度、現代美術艸居では 2021 年 4 月 2 日（金）から 5 月 1 日（土）まで松村淳個展「METAFICTIONAL ADAPTATION CYCLE」を開催いたします。幾何学的な曲線を持つ白い磁器作品で知られ、近年は国内外のアートフェアにも出展するなど活躍の幅を広げる陶芸家の松村淳。艸居では初の個展となる本展では、オブジェの新作約 10 点を展示いたします。

特徴的な曲線を持った松村の作品は、磁土を輶轆や鋳込み、手捻りで形成し、素焼きののち時間をかけて削り、やすりをかける作業を経て生み出されます。部分的に掛けられた透明釉の質感が、複雑にうねりながら流れるラインを一層立体的に引き立てつつ冴えた印象を作品にもたらしています。

その独特なフォルムは必ずしも作家の意図によって立ち現れるものではなく、その無意識の中からやってくるものもあります。特に削りの工程について、時間のかかる作業であるが故に自分の内側にあるものが自然とラインに出てくると松村は語っています。それは松村の世代が囲まれて育ってきた SF 作品の世界観を思わせるものもあります。

陶芸の道に入るより以前、アメリカで海洋生物学を学んでいた松村は、生き物の生態を調べ進化の歴史を考察するうち、「興味の対象が自己内部へと向かうようになった」と言います。松村にとって作品の制作は、いわば困難を伴う作業に没頭している間の過集中状態（ゾーン体験、あるいはフロー状態）にある中で、作家本人の自己の潜在意識が作品を通じ浮かび上がってくることであり、その作品を第三者の目に晒すことは、その潜在意識を形作っている記憶や経験などのインプットについて改めて客観的に検証する機会でもあるのです。

作品制作は時に心身ともに困難を伴うものですが、それらの負荷を「進化に必要な環境ストレス」と表現し、そこに身を投じている時のフロー状態が楽しいとさえ語る松村。常に現状に倦むことなく進化を続けようとする探究心と、現代工芸の突然変異種たらんとする松村の最新作をぜひご高覧ください。

### 松村 淳（まつむら・じゅん）

1986 年千葉県生まれ。現在は埼玉県にて制作を行う。

2015 年に多治見市陶磁器意匠研究所、2018 年に金沢卯辰山工芸工房を修了。

主な展覧会に「MOMENT」(Giant Year Gallery、香港、2017 年)、「青か、白か、 - 青磁×白磁×青白磁」(茨城県陶芸美術館、2020 年)、「No Man's Land - 陶芸の未来、未だ見ぬ地平の先-」(兵庫陶芸美術館、2021 年)などがあり、ART BEIJING (中国、2016 年)、SOFA CHICAGO (アメリカ、2016 年)、TEFAF Maastricht (オランダ、2017 年)、COLLECT (イギリス、2017 年)、アートフェア東京 (2017 年、2018 年) など世界各地のアートフェアにも出展している。



是非、貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸甚に存じます。  
掲載用、写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡頂けますと幸いです。

プレス担当：元林久美子  
〒605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2  
[motobayashi@gallery-sokyo.jp](mailto:motobayashi@gallery-sokyo.jp)  
Tel: 075-746-4456 Fax: 075-746-4457